

2011年3月期第3四半期決算説明会 質疑応答

1. 日時：2011年2月3日(木) 13:30~15:00
2. 場所：東京會館 9F ローズルーム
3. 当社側説明者： 代表取締役副社長執行役員 CFO 松本 順一
常務執行役員 CFO 補佐兼経理部長 岡田 譲治
IR 部長 堀 健一

4. 質疑応答：

- 質問 豪州のサイクロンによる石炭事業への影響は。
- 回答 3Q 決算へは若干の影響があった。4Q は出荷量が相当程度落ちる前提で決算予想を策定している。
- 質問 今回上方修正した機械・プロジェクトセグメントの資産リサイクル以外の要因は何か、また、下方修正した非資源の各セグメントに特殊要因はあるか。
- 回答 機械・プロジェクトは、資産のリサイクル以外に海外発電事業の電力デリバティブ契約に係る時価評価損益の改善、及び南米を中心とする自動車事業の好調により上方修正した。食料・リテールは商品相場の高騰による先渡契約の時価評価損の計上、コンシューマーサービス・情報産業は事業再編に伴う損失を織り込み、それぞれ下方修正している。
- 質問 法人税率の引き下げによる影響は。
- 回答 金額は申し上げられないが、プラスの影響が見込まれる。
- 質問 金属資源セグメントの4Q 予想が、3Q 実績対比で減益となる要因として、鉄鉱石の出荷量をどのように想定しているか。
- 回答 豪州の鉄鉱石の出荷量はサイクロンによる出荷量の減少を織り込んでいる。
- 質問 2Q 決算時点の下半期予想で有価証券の減損を見込んでいたが、3Q 末時点の状況はどうか。
- 回答 上場有価証券の評価損は2Q 決算時の予想よりも改善しているが、一方で今回見直した年間予想には事業再編に伴う損失を織り込んでいる。
- 質問 今回年間予想を3,200億円から3,700億円に上方修正しているが、一過性の要因とファンダメンタルな要因の割合は。
- 回答 500億円の上方修正のうち、約半分が資源・エネルギー関連の市況要因、約1/4がポートフォリオ組替に伴うリサイクルによる収益貢献、残りの1/4が鉄鋼製品や化学品、機械・プロジェクトセグメントの収益力の改善とみている。
- 質問 エネルギーセグメントの上方修正の要因は。
- 回答 石炭の出荷量の減少が見込まれるものの、原油価格の上昇、探鉱費負担の減少、及び三井丸紅液化ガスのJX（JX日鉱日石エネルギー）のLPG事業との合併に伴う時価評価益を織り込んでいる。

質問 米州セグメントを上方修正しているが、マクロの景況感の見方や個別の事業の状況について説明願う。

回答 上方修正の大きな要因としてNOVUSにおけるメチオニン価格の下落幅の縮小があるほか、米国の緩やかな景気回復の恩恵を受け、全般に業績が改善していることが挙げられる。

質問 鉄鉱石の市況や需給の動向に対する当社の見方について教えて欲しい。

回答 鉄鉱石価格と相関関係のある鋼材価格や粗鋼生産量が上昇しているほか、インドの鉄鉱石の輸出規制もあり、中国の港湾在庫が 8,400 万トンとやや積み上がってきていることが気掛かりではあるものの、それでも需要の約 1.5 ヶ月分と危険なレベルとは考えておらず、短期的には強気に見ている。中長期的には、確度の高い鉱山の拡張計画を織り込んでも需給はタイトに推移するのではないかと考えている。

質問 資源関係の投資戦略について教えて欲しい。また、他商社ではマジョリティを取る案件もあるが当社の方針は。

回答 資源・エネルギー分野では鉄鉱石、石炭、銅、ニッケルを中心に権益積み増しを目指している。競争力のある既存案件の拡張が優先だが、資源は何れ枯渇するものであるため、鉄鉱石で組んでいる Vale や BHP、Rio Tinto などのように強いパートナーとの好関係を基に、新規案件にもバランスよく取り組んでいく方針。また、当社は資産リサイクルの柔軟性を確保するため、ノンオペレーターに徹する方針。

質問 Valepar の 3Q 実績の 2Q 実績対比での増益要因を教えて欲しい。

回答 鉄鉱石価格の上昇が主因。

質問 Multigrain の追加取得の背景と今後の方針は。

回答 Multigrain はブラジルで農業生産のほか、大豆の集荷などトレーディング事業を行っており、北米で小麦等の集荷を行っている United Grain と合わせ、食料資源を確保する戦略の中核をなす投資として位置付けている。また、将来的にアフリカや新興国での農業事業を検討する橋頭堡とも位置付けている。報道等では Multigrain は農業事業をフォーカスした形で取り上げられるが、主力の穀物集荷に於いて集荷力を如何に持つかが重要であり、また集荷に農業を組み合わせることで信頼感に繋がると考えている。当期の赤字の主因は貨車不足による内陸輸送コストの増加と天候要因による大豆の収穫量の減少等。今後の業績については、来期の事業計画の策定を通じて検証していく。

質問 3Q からサハリンⅡプロジェクトに係る受取配当金を認識しているが、今後は有償減資と配当と両建てになるのか。

回答 配当と有償減資の割合については、サハリンエナジー社で判断することになるため、今後の割合については不明。

質問 3Q の鉄鉱石出荷量増加の背景を教えて欲しい。

回答 3Q は中国の輸入量の増加が主因だが、4Q 予想においては反動減を織り込んでいる。

質問 今回下方修正した食料・リテール及びコンシューマーサービス・情報産業セグメントの今後の見通しは。

回答 食料・リテールは川上の食料資源の確保や川下の流通戦略などの取り組みを進めているが、収益貢献に結び付くには時間が掛かる。コンシューマーサービス・情報産業は事業再編を進めている。不動産事業は規模を抑えて経営する一方、サービス事業分野やメディカルヘルスケア分野で将来に向けた布石を打っているが、こちらも収益貢献は少し先となる見込み。

質問 CHS との共同事業であった United Harvest に続き、Multigrain でもパートナーを解消することになったが、同社との関係は。

回答 同社とは米国における加工油脂食品事業の Ventura Foods については、引き続き戦略パートナーとして協働していく。United Harvest、Multigrain については当社の施策を着実に実行していく。CHS とは今後も良好な関係を続けていく。

質問 食料価格が上昇しているが、肥料事業を含め当社への影響はポジティブか。

回答 国内の肥料事業に就いては、引き続き事業の効率化を推進している。肥料事業は今期ペルーのリン鉱床への参画を実行したが、食料需要の増大により当初の想定より市況が上昇する部分は追い風となる。

質問 リサイクルに伴う収益や事業再編に伴う損失は来期以降も継続的に発生するのか。

回答 ポートフォリオの見直しに伴うリサイクルは今後も継続的に実施する。リサイクルはキャッシュの創出が目的であり、キャピタルゲインの獲得が前提ではない。尚、発電事業については優良資産を積上げる方針の中で、戦略的なリサイクルも同時に行う方針を掲げている。

以上